第12回世界遺産学習サミットin屋久島
世界自然遺産の島　屋久島から　これからの世界を考えよう
～2030年へ向けて，共に歩もう～
開催報告書

期日　令和４年２月10日（木）～12日（土）
会場　屋久島町役場　他

1　目　的

世界遺産を有する地域の児童・生徒らが共に学び共に考える機会をもつことで，お互いの存在価値やこれからの生き方について考えたり，世界遺産を有することの価値を再発見したりすることを通して，2030年に向けて，持続可能な社会の担い手となる児童・生徒の育成を図る。

2　大会概要

第12回世界遺産学習全国サミットｉｎ屋久島は，当初，一日目を「屋久島から学ぶ日」二日目を「屋久島を体感する日」三日目を「共に思いを広げる日」として計画していましたが，新型コロナウイルス感染症オミクロン株の拡大を受け，屋久島町と全国の参加者とをオンラインでつなぎ，現地参集の数を少なくしたハイブリット型で実施しました。

(1)　サミット１日目

サミット１日目は，安房小・永田小・八幡小の３校がこれまでに活動を発表したり，活動を通して学んだことをこれから自分の生活にどう生かしていくか宣言したりする子供たちの姿がありました。

【永田小学校】

【八幡小学校】

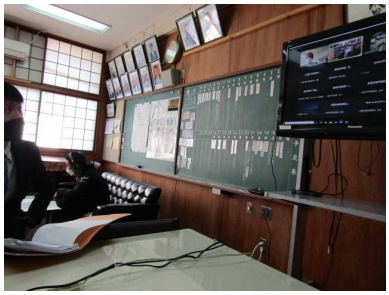
【安房小学校】

また，岳南中では，探究・発信型学習として，ＳＤＧｓの17の目標を基に「過去・現在・未来」の観点から調べ，まとめたことをポスターセッション形式で全国の参加者や生徒間で発表しました。オンラインで視聴した，京都市教育委員会の指導主事から「屋久島の特産物にはどんなものがありますか。」の質問があり，生徒が屋久島の特産品について返答するやり取りもあり，ＩＣＴを活用した新たな活動の様子も垣間見ることができました。

授業後に開催された交流会では，屋久島型ＥＳＤのこれまでの取組を各担任が説明したり，本町が委嘱するＥＳＤアドバイザー（屋久島環境文化研修センター小薗さん，福元さん，中村さん）らの実践の紹介があったり，ＥＳＤグローバルアドバイザー（杉下さん）と学校との連携やこれまでの取組について説明したり

しました。また，オンライン上で参加した全国の教育関係者からも多くの質問が寄せられ充実した交流会となりました。

【岳南中学校】



【交流会の様子】

(2)　各校の活動

学校名 参加クラス	指導者	単元と活動のねらい
屋久島町立 安房小学校 ４年い組	窪田　あずさ	単元名「水に学ぶ」 子供たち自身の住んでいる世界自然遺産の島「屋久島」の魅力を再認識させ，郷土愛を育むことをねらいとした学習活動です。この学習をとおして，屋久島の豊富で美しい水を大切にしたいという思いや，屋久島の自然環境を守り続けるといった実践的な態度を育んでいきます。
屋久島町立 八幡小学校 ３年１組 ４年１組	橋口　和真 當間　いづる	単元名「発見！発信！屋久島の自然」 屋久島国立公園や世界自然遺産，自然保護活動について調査し，自分たちにできる発信方法や自然保護活動を考え実行する学習を通して，主体的に学び，考え，行動する力を育てることをめざす単元です。
屋久島町立 永田小学校 ３・４年１組	吉富　祐子	単元名「水と共に生きる」 世界自然遺産の島，屋久島の魅力について，体験活動や土面川調査，ESDアドバイザーの指導を根拠に，水を通して追究し，現在及び将来にわたって美しい水（環境）を保全させていくための，郷土愛を育むことを目指す単元である。
屋久島町立 岳南中学校 １年１組 ２年１組 ３年１組	長嶺　剛 黒木　雄太 伊藤　和輝	屋久島を中心にＳＤＧｓにおける１７のターゲットについて，生徒たちが選択し，選んだターゲットの内容について１年生は『過去の状況と課題』について，２年生は『過去の状況から現在の状況で改善されたこととなお残る課題』について，３年生は『現在の成果と課題から将来に向けて，誰一人取り残さない社会の実現のためにできること』を提案。

(3)　サミット２日目から３日目

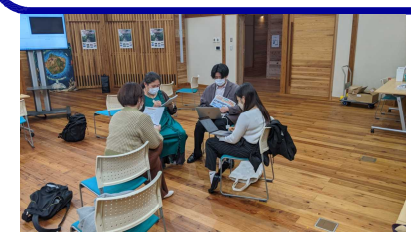
【オンラインポスターセッション企画・立案・実施までの取組】

３日目に予定していた児童・生徒による会場に参集してのポスターセッションは新型コロナウイルス感染症オミクロン株の拡大を受け，中止となりました。しかし，長谷部葉子先生とゼミ生の３名（小檜山さん，森さん，後藤さん）の御尽力いただき，各校から提出された動画を活用した，オンラインポスターセッションという新たな発表，交流の形で実施することができました。

【実施までの流れ】

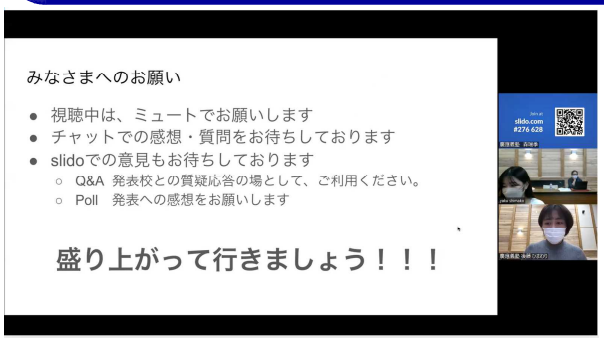
発表動画の提出
TeamsやGoogleドライブを利用した提出
→大容量データの送付方法の共通理解

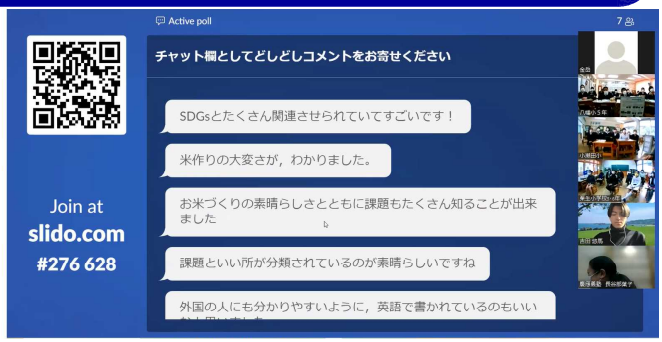
発表動画の配信順番の検討
ジャンルや発表の方法，メッセージ性を多面的に吟味



当日の様子

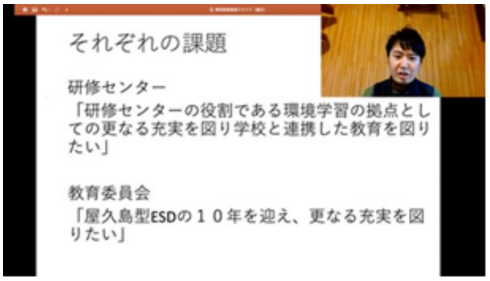
コーディネーターは来島したゼミ生3名が実施してくれました。オンラインポスターセッションの参加者は，町内の児童・生徒以外にも，慶応義塾大学SFCの学生も参加し，より多くの交流や意見交換が実現するように，チャット機能を活用して実施しました。

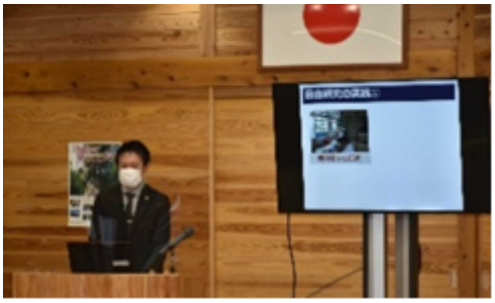


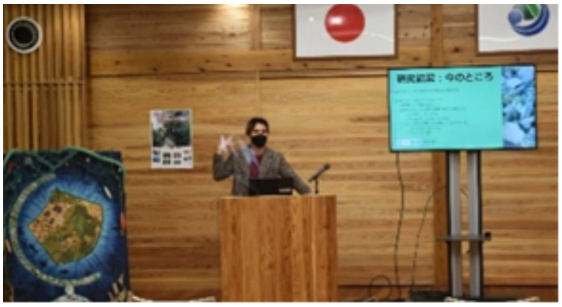


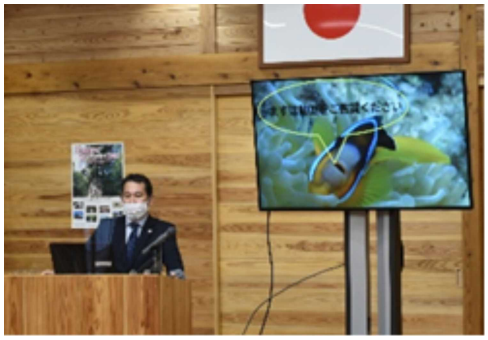
(4)　サミット３日目午前の部【町内・県外の実践発表】

３日目は，サミット最終日「共に思いを広げる日」として，午前中に，町内外の先生や教育関係者，屋久島高等学校普通科環境コースの生徒による発表，(3)で報告した研究ゼミ生３名による新たな形式でのオンラインポスターセッションで参加した各小・中学校の子供たちが，各校の取組のよさをチャットで伝え，大盛り上がりとなりました。





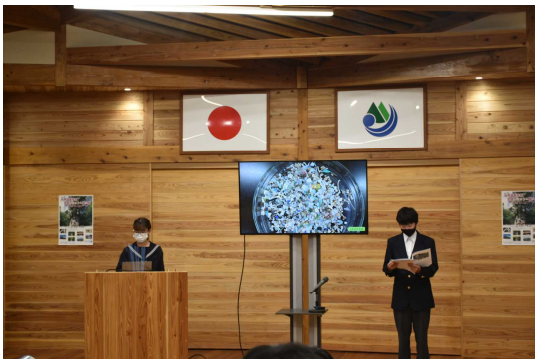




(5)　サミット３日目午後の部【金岳中発表】

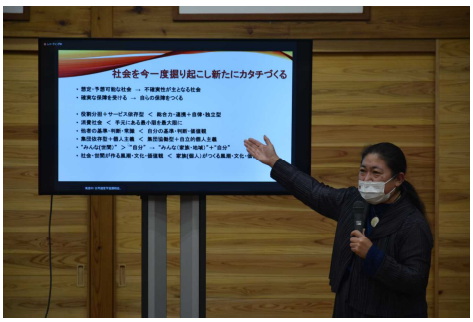
海洋プラスチックごみ問題に当事者として取り組む金岳中の発表では，発表を行った金岳中一年貴船桃さんは発表の中で「人間が作り出したゴミは人間がどうにかしなくてはいけない」と述べ，国際的な問題である海洋ごみ問題について発信してくれました。

【海洋ごみで制作したSDGｓのロゴ】



(6)　サミット３日目午後の部【記念講演】

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部准教授長谷部葉子先生による記念講演「ここ屋久島からこれからの世界（未来）を考える」の演題で，これから求められる人材とはどんな人材なのか，長谷部先生のこれまでの経験を基に，御講演いただきました。



3　閉会行事

閉会行事は，本サミットの宣言として，安房小学校４年い組の子供たちの「地球星歌」の合唱にのせて，大会を振り返りました。

4　まとめ

本サミットを屋久島町で開催することに手を挙げたのは，令和元年の11月の頃でした。翌年には，東京オリンピックを控え，日本全国がおもてなしの雰囲気に包まれていました。その約1か月後，中国の武漢で感染が初めて認められた新型コロナウイルス感染症が引き起こす混乱や教育界への影響について，知る由もありませんでした。そして，令和２年２月ウイルスへの感染が国内で数例認められる中ではありましたが，第10回の世界遺産学習全国サミットｉｎ奈良が開催されました。屋久島町も大会へ参加し，多くの先進的な取組を学ばせていただきました。また，ＧＩＧＡスクール構想の初年度ということもあり，オンラインを活用したネットワーク作りも進めることができました。

大会実施に向けて，屋久島町は，離島であることを踏まえ，急速にICT化を進める必要がありました。令和２年度は，ＥＳＤ先進校として，数校を指定し，オンラインによる活動交流を実施したり，奈良市の小学校とオンラインでの活動交流型の授業づくりを行いながら，ICTを活用した授業づくりを進めました。また，島内の人材活用についても進め，環境文化研修センターの職員をESDアドバイザーとして委嘱しました。さらに，ＪＩＣＡ職員として世界で活躍された方をＥＳＤグローバルアドバイザーとして委嘱し，各学校の教育活動の充実に協力をもらいました。

令和３年度は，２月のサミット本番に向けて，令和２年度に整えた環境に加え，屋久島版SDGｓボードゲームの作成，慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部准教授　長谷部葉先生との連携，奈良市立辰市小学校，平城小学校と連携したテーマ共有型の授業づくりなどを推進しました。

２月のサミット期間中は，３年間の取組を各学校や実践家が充実した発表を行いました。当初の計画通りの実施とはなりませんでしたが，ＩＣＴを活用した新たな学習環境の中で，屋久島ならではのサミットとなりました。

今後は，本年度の実績を基に，慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと「次世代を担う人材育成に向けた連携協力協定」を結び，子供たちの教育環境の充実を進めていきます。また，奈良教育大学ESDティーチャー育成派遣事業の活用も行います。さらに，ユネスコスクール加盟を進める学校もあるため，ＥＳＤグローバルアドバイザーを派遣し，学校へのサポートを実施します。

最後に，本サミットに向けて，コロナ下でありながらも視察を受け入れていただいた奈良市，宗像市，綾町の皆様，大会に参加に向けて多くの御示唆をいただいた福岡教育大学石丸哲史様，教育活動の充実に向けて尽力いただいた各学校・事例発表者の皆様，協議会会員の皆様，協議会事務局の奈良市教育委員会の皆様，多大なる御支援・御協力を賜りましたことに感謝申し上げます。